



「善力前進」ともに伸びよう 善前小 ～はずむ心 きたえる体 学ぼう創ろう「みどりの学園」～

## 「行為」の「価値」を高める言葉かけを

校長 小田切 倫子

「運動会は、なぜ行うのですか？」

練習は、運動会をやる“意義”について考えることから始めました。運動会を通して、心も体も「成長」させるため。そして、「成長」した姿を見ていただくことで、「感謝」の心を伝えるため。

暑い中、たくさん汗をかいて練習を重ねました。最後の週は雨が続き、思い通りの練習ができませんでした。本番も、不安定な天気が見込まれたため、プログラムを変更し、結果として2日に渡っての実施となりましたが、子どもたちはしっかりと目標をもち、精一杯力を発揮しました。

努力が実り、自分の思い描いたとおりの結果となった子どももいます。運動会には勝敗がありますから、残念な結果となってしまった子どももいます。結果はどうであれ、一生懸命がんばった子どもたちを、大いに褒めて欲しいと思います。

「ダンス、上手だったよ」

「徒競走、速く走れたね」

これも、もちろん子どもを認める褒め言葉です。

「『踊りはあまり好きじゃない』って言っていたけれど、真剣に踊る姿がすてきだったよ」

「1位でも（負けそうになっても／負けてしまったけれど）最後まで力を抜かずに走ったね」

“上手に踊った”“速く走った”という「行為」に、葛藤や克服などの心の動きを併せて伝えることで、「価値」が高まります。応援団に立候補して、大きな声でがんばった児童がいます。用具係で、重い用具を運んでくれた児童がいます。

「『どうしようかな』って迷っていたけど、みんなの前で堂々として、格好良かったよ」

「『重くて嫌だな～』と思ったと思うけど、仕事の責任を果たして偉かったね」

運動会の様々な「行為」に「価値」をつけることで、その後の生活場面においても「大変なことでも最後まで努力をしよう」「勇気を出してチャレンジしよう」といった動機付けとなり、生きた学びとなるのです。

運動会のような大きな行事には、学びの要素がたくさんあります。運動会への思いはそれぞれですから、運動会から得た学びもそれぞれです。子どもの言葉に耳を傾け、姿を見守り、心の動きを感じるからこそ、その子が本当にならした「価値」を見出すことができ、子どもの心に響くメッセージを送ることができます。お子さんを、たくさんたくさん、褒めてあげてください。学校でも振り返りを行い、さらなる「成長」への意欲を高めます。

体調を気遣い、当日も熱い声援を送ってくださった保護者の皆様、ありがとうございます。あたたかく見守り、励ましの言葉をかけてくださった地域の皆様、ありがとうございます。連日の練習、そして2日間にわたる本番の大音量でご迷惑をおかけした近隣の皆様のご理解に、心より感謝申し上げます。一生懸命がんばる子どもたちの姿を通して、「感謝」の心が少しでも伝わりましたら嬉しく思います。本当にありがとうございました。